

# 「科学はおもしろい 一緒にたのしもう」

植物生態学研究室ミニシンポジウム（岡山植生研究会）兼 波田教授第1回最終講義

開催日及び時間 2018年2月17日（土）13:00~16:00

岡山理科大学 C2号館（旧第21号館） C025号教室



## 講演内容



### 第1部 13:00-14:45 若手研究者による発表

瓜生真也（国立環境研究所）

「波田研究室で学んだこと、波田研究室を出てから学んだこと」

奥田 圭（東京農工大学）

「放射能汚染および津波被害に伴う人間の移出が野生哺乳類群集に与える影響」

朝波史香（徳島大学）

「海岸マツ林の持続性を支えるガバナンス」

山尾 僚（弘前大学）

「厄介でおもしろい植物の柔軟性」

### 第2部 14:50-16:00 波田教授第1回最終講義「地質が導く地形・植生と地域社会」



## 企画趣旨



一昨年度、晴れて(?)定年を迎えられた波田先生が、40周年記念館(旧第25号館)理大ホールにて最終講義をされたのはつい最近のことように思い出されます...と言いますか、実際に最近ですね。

2016年2月16日、奇しくも波田夫妻の結婚記念日であったその日、最終講義において語られた内容は、やはりとても面白く、出席した波田ゼミOB連にも「マジか？初めて聞いたゾ!!」と仰け反る内容が多々ありました。しかし、当該講義は学部主導の催し、加えて、事前に波田先生からも「あまり調子に乗らないように!」と釘を刺され、数名のガラの悪いのOBからは不完全燃焼の声も聞こえておりました。

その一方で波田先生ご自身は、学長の任期も満了して、最終講義をやり終えているにもかかわらず、翌年度から特担教授として教壇に立たれている始末...

一昨年のあれは正に幻の最終講義!!ほんとの最後はいつなにか!!!

そんなこんなでこの度、「いっそのこと2回目の最終講義を開催してしまおうか?」、「いやいやこっちは1回目、あれはノーカンだろ。」「なら、毎年やっちゃおう!」と言うことで、勝手にもりあがってしまいました。

栄えある第1回目は、研究者を志した3人の波田ゼミ若手OBからの講演をお聞きするほか、「波田ゼミは仮想敵国」と公言して憚らない徳島大学の鎌田教授にも遠路お越しいただき、同研究生の朝波様にも講演いただきます。

もちろん、最後には私たちに科学の楽しさを教えてくれた波田先生に「どうだ、楽しいだろう!」と、ガッツリ研究のお話を語っていただきます。

今回の講演会が、OB連にはなにかと楽しかった研究室時代を思い出すきっかけに、現役学生には将来なりたい自分に近づく更なる一步を踏み出すきっかけになれば幸いです。

企画担当者一同



13:10-13:30 瓜生真也（国立環境研究所）

「演題:波田研究室で学んだこと、波田研究室を出てから学んだこと」

私は波田研卒業後、大学や民間企業、研究機関と転々として来ましたが、その背景には常に波田研で得た知識が存在していました。植生学と生態学、GIS、プログラミング、画像解析…これらの波田研に馴染みの単語をキーワードに、研究室を出てから学んだ技術や最近の話題について、思い出とともに紹介します。

13:35-13:55 奥田 圭（東京農工大学）

「演題:放射能汚染および津波被害に伴う人間の移出が野生哺乳類群集に与える影響  
—人口減少社会における野生動物管理を考える—」

人口減少は野生動物に対してどのような影響をもたらすのか。1986年のチェルノブイリ原発事故の事例では、避難に伴う人間の移出は、野生哺乳類に対して放射線による負の影響以上に正の影響をもたらし、中・大型哺乳類の爆発的増加をもたらすことが報告されている。本発表では、日本における野生動物問題について、私が携わってきた研究を交えて概説するとともに、福島における野生動物研究について紹介したい。そして本発表を通じ、人口減少社会における野生動物管理について考える機会を提供することができればと考えます。

14:00-14:20 朝波史香（徳島大学）

「演題:海岸マツ林の持続性を支えるガバナンス」

様々な生態系サービスを提供してきた海岸マツ林をグリーンインフラとして維持することが求められている。遷移初期群落としての海岸マツ林を持続的に維持していくため、資源管理の仕組みが必要である。徳島県阿南市および海陽町、福岡県福津市の3地域にて、地域住民等へヒアリング等を行い、土地所有者、保全活動の内容、マネジメントの仕組みを把握した。そして、3地域のマツ林管理の持続性を比較検討し、ガバナンスの重要性について明らかにした。本発表では、自然資本の保全・活用と地域社会とのつながりの様態について考えます。

14:25-14:45 山尾 僚（弘前大学）

「演題:厄介でおもしろい植物の柔軟性」

固着性生物である植物は、一度根をおろすと動物の様に移動する事はできない。そのため、植物は柔軟な環境応答能力を備えている。私はこの10年間、植物の柔軟な環境応答に振り回され、そして魅了されてきた。本発表では、私が波田研に入って以降目の当たりにして来たさまざまな植物の環境応答について、当時の思い出とともに紹介します。



## 大学へのアクセス、懇親会、その他連絡事項



### 岡山理科大学へのアクセス

正門着:岡山駅西口(22番乗り場)  
岡電バス「47 岡山理科大学」行  
約20分(200円)



岡電バス時刻表

### 懇親会場のご案内

「Ryoutei 奉還町本店」  
18時開始  
岡山駅西口から徒歩10分  
費用:4,000円前後予定



懇親会場HP

- ゼミ卒業生だけでなく、ご興味のある方、誰でも大歓迎です。
- ミニシンポジウムもしくは懇親会のみ参加も可能。
- 懇親会での飛び込み発表もお待ちします。
- 平服でお気軽にご参加ください。
- 宿泊場所の確保は各自でお願いします。
- ご質問、ご連絡は小川(旧姓栗山)まで。  
携帯電話090-5040-8407  
email:m.ogawa@maia.eonet.ne.jp